

## 鹿児島の昆虫 79

## 「水生昆虫と湿地」

昆虫担当 中峯 敦子

湿地には、川や湖のほか、サンゴ礁、マングローブ、水田、小さな水たまりなど様々な環境が含まれ、その独特な環境は、多種多様な昆虫を育む場になっています。

## 1 水生昆虫とは



水面に浮上したコガタノゲンゴロウ

「水生昆虫」とは総称で、一生を水面、もしくは水中で生活したり、幼虫期のみ水中で生活したりする、様々な昆虫のことをいいます。

## 主な水生昆虫の種類

	不完全変態	完全変態
一生を水中や水面で過ごす	カメムシ目 (例: タガメ, アメンボ) など	コウチュウ目 (例: ゲンゴロウ, ガムシ) など
幼虫期は水中で、成虫は陸上で生活する	トンボ目, カゲロウ目, カワゲラ目など	トビケラ目, ハエ目, ホタル科など

※ 昆虫は、成虫になるまでの成長過程にちがいがります。

不完全変態：たまご→幼虫→成虫

完全変態：たまご→幼虫→蛹→成虫

## 2 水面の小さな物語

約 4 mm の小さなアメンボ、トガリアメンボ *Rhagadotarsus kraepelini* は、東南アジアやニューギニアを原産地とする外来種です。鹿児島県では 2012 年に初確認されました。

2022 年 7 月、分布調査で阿久根市の、とある池を訪ねた時のことです。樹林に囲まれた池の端にしゃがんでみると、1 頭のトガリア



メンボが、小さな木片を押しながらか近づいてきました。時々止まっては、からだを小刻みに震わせて、水面に波紋を広げます(写真上)。



このアメンボはどうやらオスで、振動による波に誘われたメスが近づいてきました。このメスは、結局、離れていきましたが、しばらく繰り返すうち、別のメスが、この木片に飛び乗りました(写真下)。オスはすかさず木片を押し始めます。2 頭は、木片のボートに乗って、なかよく水面を滑っていきました。振動で起きた波は、メスへの求愛信号です。メスはオスが運ぶ木片などに産卵するといわれていますが、この日は、産卵を観察できませんでした。

## 3 湿地いろいろ、虫いろいろ

トガリアメンボは、植物が繁茂した岸近くや橋の下など、陰のある水面を好みます。これに対し、日本でふつうに見られるナミアメンボ *Aquarius paludum* は、水田や明るい池、プールなど幅広い環境に適応しています。つまり、同じアメンボでも、好む環境は一様ではありません。このように水生昆虫は、湿地周辺の様子や植生、水深、水質など、湿地の特徴に応じ、密接に関わり合いながら生息しています。水生昆虫は、湿地の生態系の状態を反映する指標生物でもあるのです。